

## 滋賀県がん診療連携協議会・第2回相談支援部会

日時：平成26年11月5日（木）17：30～19：00

場所：県立成人病センター東館1F 講堂

【部会長】成人病センター 鈴木副院長

【副部会長】大津赤十字病院 芥田部長、市立長浜病院 伏木部長

【部会員】滋賀医科大学附属病院 喜多下看護師、  
大津赤十字病院 がん相談支援センター 佐川看護師、  
成人病センター がん相談支援センター 三輪主幹、  
公立甲賀病院 がん相談支援室 柴田室長補佐、  
市立長浜病院 がん相談支援センター 新川副センター長、  
大津市民病院 地域医療連携室 松井室長、草津総合病院 吉村課長、  
長浜赤十字病院 医療社会事業課 寺村、  
滋賀県歯科医師会 吉川（住井代理）  
滋賀県歯科衛生士会 長谷川、滋賀県がん患者団体連絡協議会 菊井会長、  
滋賀県がん患者団体連絡協議会 藤田、滋賀県健康医療福祉部 奥井副主幹、  
成人病センター 嶋田主査

【事務局】滋賀県立成人病センター 石見参事

【欠席部会員】済生会滋賀県病院 社会福祉事業課 川添課長補佐、  
彦根市立病院 がん相談支援センター 田中、  
近江八幡市立総合医療センター 地域医療課 嶋田、東近江総合医療センター 山脇  
滋賀県薬剤師会 渡邊委員、滋賀県高島保健所 雨森主幹

【オブザーバー】成人病センター 吉田副部長、成人病センター 岡村

### 部会長あいさつ

（鈴木部会長）

第2回滋賀県がん診療連携協議会相談支援部会を開催させていただきます。皆様方、本当に地域ならびに現場におきまして、相談業務にまい進されて本当にお疲れ様です。また今日は遠いところ足を運んでいただきましてありがとうございます。リレー・フォー・ライフに関しましても、本当に皆様の方で成功に終わったということで本当にうれしい限りです。

中でも他府県の方がたくさん来られていたということで、そのコメントにおきまして、患者さんはもとより協議会そういうところがちゃんと店舗をいろいろ作って、実際に一緒に行動しているのが非常に印象的であったというコメントをいただきました。時にはお褒めの言葉もいただけるものかなと思っています。それに力をいただいて益々がんばっていきたいと思います。

では座らせていただきまして、お手元の次第に沿いまして進めてまいります。次第とは別に第1回の部会の議事録をまとめてございますので、ぜひお目通しください。まだ少し時間がありますので、ここをというところがもしありましたら、事務局のほうへご一報いただければありがたいと思います。

では今日も盛りだくさんですが、議題1番目、相談支援部会の取り組み評価(中間評価)について事務

局よろしくお願ひします。これに関しましてお断りしたいのですが、この部会を含めた6つの部会を束ねている企画運営委員会という上部の会がありますが、既に終了してありまして、そこにおきまして今から事務局から報告していただくことについては、承認済みになっています。日程の都合上順番が逆になりましたけれどもここにお詫びいたします。

## 1 相談支援部会の取り組み評価(中間評価)について

(事務局)

相談支援部会の事務局を担当しております成人病センターの石見です。お配りしている資料ですが、一つの資料ともう一つの健康医療課の資料、先ほど部長から言っていただきました第1回目の部会のとりまとめということでお渡しさせていただいております。拠点病院と支援病院の方にはいきいき健康ライフのDVDを置かせていただいておりますので、相談コーナー等でご活用よろしくお願ひします。

それでは1番目の議題の相談支援部会の取り組み評価(中間評価)について説明させていただきます。1ページの資料、アクションプランシートですが、実績、中間評価ということで9月までの実績を載せております。4月からがん患者サロンの開催を通年で行っております。第1回部会を6月26日に開催しております。9月5日に第3回がん相談シート標準化検討WGを開催させていただいております。国立がん研究センターの相談員の指導者フォローアップ研修会を9月27・28日に3名の方が参加しております。実績としてはこちらのほうになりますが、後半に研修会とか検討会とか盛りだくさんになっていますが、評価としてはAということにさせていただいております。

相談シート標準化検討ワーキンググループを開催して、PDCAサイクルの目標設定を協議しましたが、今後はがん相談ワーキンググループとして相談していくということにワーキンググループの中で決まりました。それが結果としております。

11月12月の研修会についても事前の打ち合わせをかなりされてありまして、準備を進めておりますので確実に実施できる予定です。事例検討会は2月くらいの実施となる予定ですが、今後実施方法等を検討して実施していく予定にしております。ということで評価Aにさせていただいております。アクションプランシートの説明は以上になります。

(鈴木部長)

ありがとうございました。何かご追加するようなところはありますか。もし漏れがありましたら教えてください。企画運営委員会ではAということで承認されています。Aの上にはA+というのがありますので、最終のところの自己評価A+に持っていきたいと思います。

では二番目、PDCAサイクルについて石見さんよろしくお願ひします。

## 2 PDCAサイクルについて

(事務局)

二番目のPDCAサイクルについては、先ほどの2ページを見ていただきたいと思います。PDCAサイクルの目標設定については、ワーキンググループでも検討していただきまして、その後各担当者からアンケート等をいただいております。結論としては1番2番とあるのですが、1番がんにかかわる相談者に対してアンケート調査を行うと(対面面接のみ)ということで、指標名としましては利用者の満足度をはかるということで、データ票としましてはアンケート調査票によって行うと。算出法は相談窓口利用後にアンケート調査を行うということにしております。

アンケートの内容については(1)属性、性別、年齢、住所地、(2)対応内容への評価、役に立つとか役に立たないとかどちらでもないということで、安心の面でフェイススケールではかると。「満足、役に立った」についてフェイススケールをもって評価していくということを考えています。(3)相談窓口に関する情報入手経路ということで、医療関係スタッフであるとかパンフレットとか家族、友人知人であるとか、そういったものの仕分けをしまして、そこにチェックを入れていただく予定にしております。(4)相談支援センターの今後の活動についての要望、(5)自由記載で書いていただくということで、上記の回答をした相談者の割合や、その場で匿名記載、相談室の回収箱等に入れていただくということで、毎月集計を行って満足度の評価を行うということを PDCA サイクルの目標ということで部会の目標にさせていただきます。

これで企画運営委員会のほうに報告させていただいております、2 番目については相談窓口の満足度をあげるために、事例を集積、検討、分析を行うということで相談事例検討会を今後やりますので、それを利用しながらこういった形で相談事例の集積、検討、分析、相談窓口の相談事例、各病院の相談窓口に寄せられた相談事例を持ち寄って評価を行うということを、上乘せでできればいいということであげさせていただいております。

#### (鈴木部会長)

ありがとうございました。PDCA サイクルに関しては、やはり概念的に難しいかもしれませんが、少し付け加えますと、各病院さんによりましては、こういう PDCA サイクルを通じて病院の質の向上、経営基盤の確立とかを作っています。例えば A 病院における経営的のところ、外来患者数を何人にするか外来単価を何円にするまでがんばれとか、そういうのが必ず指標、数値指標です。

しかし協議会全体の指標にはなかなかもちろんできません。従って共通な指標を作成して、そういった指標がどのくらいの達成率があったかを、お互いに足りないところに関しては、足りているところのノウハウを教えると、そういうことで全体的に滋賀県の相談支援事業をかさ上げするという意味で、各部会から一つずつ PDCA の指標を取り入れることを企画運営委員会では求めてきました。一つということですので、この部会からは今説明にありました一番目にアンケートをあげたいということで、皆さんよろしいかと思えます。

ただ1つ企画運営委員会からの注文として、患者さんの負担を少なくする。特にアンケートですからね。患者さんも協力して。後の統計的な事務処理の量をできるだけ増やさないように、上手く集められるよう、そういうシステムをお願いしたいと思います。具体的にはアンケート用紙の作成をしなければなりませんね。そういったワーキングとか考えておられますか。具体的には年内にアンケートができれば始めたい。切のいい1月1日からとかね、そういう形で計画をお願いします。

具体的に事務局のほうでアンケートの原案が出来た場合、実施する時に皆様方にお届けしてメーリングリストで話し合いするとか、情報の共有をしっかりとっていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。PDCA サイクルに関して何かありませんでしょうか。

では続きまして3番目、がん相談支援センター・相談窓口の相談員の資質向上について、一番目、相談員研修会の開催について、市立長浜病院の新川さんよろしくお願ひします。

### 3 がん相談支援センター・相談窓口の相談員の資質向上について

#### (1) 相談員研修会の開催

#### (2) 就労支援研修会の開催

### **(3) がん相談事例検討会の開催**

#### **(市立長浜病院)**

平成26年度のがん相談員研修会のご案内についてご紹介させていただきます。3、4ページになりますが、3ページ8月の時点でがん相談支援センター相談員研修の募集をさせていただきました。現在参加予定人数は、拠点病院支援病院併せて13名プラスファシリテーターで18名の参加予定となっております。かなり前のご案内でしたので、4ページにご案内文を作成させていただきましたのでご覧ください。

日程は11月14日金曜日になります。9時45分からの受付開始になりまして10時から11時まで研修を予定しております。場所は成人病センター講堂になります。参加予定の方等にこちらのご案内を周知いただきたいのですが、詳細については当日話させていただきますが、講義を含めまして事例検討等を考えておりますのでご周知をよろしくお願いいたします。当日受付におきまして参加費を300円徴収させていただきますのでご紹介いただけたらと思います。今回研修修了後に情報交換としての親睦会を予定しておりましたが、諸事情により今回は中止させていただきましたのでご了承くださいませようよろしくお願いいたします。

#### **(鈴木部会長)**

ありがとうございました。これに関してご質問等ございませんか。では新川さんよろしくお願いいたします。続きまして2番目就労支援研修会の開催についてよろしくお願いいたします。

#### **(成人病センター)**

以前にも拠点病院、支援病院の方々にはメールで送らせていただきましたが、12月12日金曜日に二部構成でがん患者就労支援研修会の開催を企画しております。場所は東館講堂です。一部は公開講座として対象は相談員のみに限らず、多職種の方でがん患者さんの就労支援に興味のある方という形で広報しております。第2部のワークショップは相談員の予定です。就労支援の実態の話を掘り下げて研修計画をしております。募集を11月21日までとしていますので、各病院の方々持ち帰っていただいて、たくさんの方に参加して頂ければと思いますので、周知をお願いできればと思います。申し込みの際には裏面に申込書がありますが、一人1枚にしておりますので、お手数おかけしますがコピーしてご利用頂ければと思います。以上です。

#### **(鈴木部会長)**

ありがとうございます。今の開催要項に関するご説明、何かご質問等ありませんか。では岡村さんよろしくお願いいたします。

次に3番目がん相談事例検討会の開催です。特に資料はございませんが来年2月に開催を予定しております。国立がん研究センターのフォローアップ研修会の受講者の皆様方で準備をお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。

次に4番目、滋賀の療養情報の内容の更新についてよろしくお願いいたします。

## **4 「滋賀の療養情報」の内容の更新について**

#### **(事務局)**

滋賀の療養情報については、各拠点病院、支援病院に配布しているのですが、こちらのほうについて修正内容等ありましたら今年度中に7ページの報告書によりまして、気が付いたところとか例えば代表番号が直通番号できたとか、そういった変更点がありましたら、事務局へ送っていただきましたら反映

させていただきまして、来年度印刷を行っていきたいと思っております。来年度いろいろ変更があると思いますので、今印刷をしてしまうともったいないことになってしまいますので、来年度に印刷をしたいと思っております。よろしくお願ひします。

こちらに書いておりますように、例えば最初のがん相談支援センターのところの後に、支援センターの部分に相談窓口も考えられると思いますが、そういったことを含めてどういったものにしていくのか含めてご意見ありましたら、より良いものにしていきたく思いますのでよろしくお願ひします。

**(鈴木部会長)**

ありがとうございます。印刷に関しましては来年度ということで、今回滋賀県におきましては特に大きなニュースとしましては、空白の二次医療圏の一つであります湖西保健医療圏におきまして、国の指定にある地域がん診療病院、これが高島市民病院が10月31日に知事から推薦されたところです。

そのグループ先としては大津赤十字病院さんということになっております。従いまして、この療養情報の内容もかなり変わってくると思ひます。東近江圏域におきましても、がん患者サロンを二つの病院で立ち上げ企画されております。まとめて来年度早々に校正印刷としたいと思ひます。従いましてそれまでの間、時間がありますので、現在の文章をもう一度協議会のホームページを見ていただいて、追加するところとかこれはもう古いよとかあれば、またメーリングリストに事務局のほうに直接お申し出ください。これに関しまして何かございませんでしょうか。予算的な措置はきっちりその枠は十分にとれているのでしょうか。

**(事務局)**

今年度もありますし来年度も確保できると思ひますので大丈夫だと思ひます。

**(鈴木部会長)**

よろしいでしょうか。この療養情報、本当に皆さん一生懸命作っていただいた賜物というか授かりものですので大事にしていきたいと思ひます。

**(市立長浜病院)**

活用状況とか配布状況とか調査をしていただいていて、また後で出してもらうのかもしれませんが、プラスフィードバックのはがきがどれだけ返ってきているか等も、もしよかったらどこかで教えてください。

**(事務局)**

はがき自体は今年度に入ってから数は少ないのですが、あまり返ってきていないところではあります。ただ配布を求めてこられる患者さんがとても多いので、結構配布は進んでいると思ひます。見ていただいている方にはかなり重宝されていると感じております。

**(市立長浜病院)**

はがきに関しては、毎年同じ状況だと思ひますが、ただもしかしたらがんになって初めて手にした人が、1年2年たつてぼちぼち返せるという判断が出来る人もいらっしゃるかなと。みんなも声かけしとかなないと、相談にみえた時に、ちゃんと返してね、と声掛けしないとなかなか返ってこないと思うので、引き続き何かできることをやれたらなと思ひます。

**(事務局)**

ありがとうございます。はがきはまだまだ少ないですが、集計させていただいて報告したいと思ひますのでよろしくお願ひします。

**(鈴木部会長)**

よろしいでしょうか。では5番目、施設別がん登録件数検索システムの運用について、9ページから14ページ少し多いですが岡村さんよろしくお願ひします。

## 5 施設別がん登録件数検索システムの運用について

### (成人病センター)

以前相談員のワーキンググループで少しお話させていただきましたが、都道府県がん診療連携拠点病院に国立がん研究センターにおりてきたシステムについてお話させていただきます。このシステムの概要ですが、14ページまで文章が並んでいますがかいつまんでお話ししていきます。

できた目的としては、都道府県がん診療連携拠点病院の機能強化事業の中に、希少がんを診ることができる医療機関の紹介がありますが、それを目的として、全患者さんに利用していただけるようなシステムを開発できないかということで、作ってくださったシステムです。院内がん登録というのをがん診療連携拠点病院はしていただいて、毎年国がんへ出してくださっていると思いますが、そのデータを用いた検索システムです。全国400少し拠点病院がありますが、その拠点病院のがん登録のデータを検索することができるというものです。院内がん登録は皆さんご存知かと思いますが、割愛しますが、書いてある通りです。これをどう運用していくかというところは、各都道府県におろされて考えてくださいということだったのですが、いろいろシステムを見ている中では、セカンドオピニオン先をどこにしたらいいかとか、例えばこのがんを数だけではないですが診療実績の多いところはどこですかねというご相談があった時に、このシステムを活用できるかなと考えています。

二番目に書かせていただいている留意事項にも書いてありますが、全国すべてのがんが登録されているわけではなくて、カバー率は70%とされています。今後都道府県推奨のがん診療支援病院さんを含めて、がん登録を随時して下さるみたいですが、まだしばらく先になってきます。一般病院で診ておられるような方は、がん患者に関してはカバーできていないというデータにもなっています。あわせて少し前のデータを集積しておりますので、その時点で要は例えば胃がんのオペのスペシャリストがいて、そこでオペをずっとしていたのだけど異動しましたというデータも集積されているので、その数字がすべてではないということで、あくまでも参考までにこのシステムを使っていただくということになろうかと思っています。

基本的には成人病センターの一台でのパソコンのみでのシステム運用になってきますので、このシステムを利用したいなということがございましたらご連絡いただきまして、できるだけ当日にはご返事させていただこうと思いますが、私のお休み等の都合上、お返事が数日かかることもあろうかと思いますがご了承ください。

2枚目以降はシステムに関する申し合わせということで、先ほど話したことを噛み砕いて書いてくれています。数字だけではないということ、相談支援の臨床等で日々感じておられるかと思いますが、このシステム、一患者支援のリソースだと思ってよろしければご活用いただければと思います。以上です。

### (鈴木部会長)

ありがとうございます。各都道府県の拠点に設置ということですね。ここにありますようにまだ試行段階ということで、本格的な活用は少し先になるかもしれません。症例数自体がかなり少ないということもあるし、数だけでなく中身ということもございます。これに関してももちろん無料ということで、どんどん活用していただきたいと思っています。実際の見学とかはもう来られましたか。見学ツアーとか、

いつでもウェルカムです。近くに来られたときは時間があえばちょっと見せてといってもらって。

**(成人病センター)**

もちろん見に来ていただければと思いますし、画面を印刷してお渡しすることもできます。ただやはり患者支援の目的で作られたシステムですので、例えば研究に使う、であったり、マスメディアに情報提供する形での情報提供はできないということだけ、注意点に書かせていただいておりますがお願いします。

**(市立長浜病院)**

医療者支援には使えないですね。妙な言い方ですが、うちの病院の何がんの放射線治療の利用率が全国と比べたらどうだとか把握できると、我々の努力目標やいろんなことにつながるわけなのですが。

**(成人病センター)**

あくまで患者支援を目的としたシステムですので。

**(市立長浜病院)**

患者さんがそういうことを要望された場合、データをお願いすることがあるかもということです。

**(成人病センター)**

例えば医療者支援としましては、セカンドオピニオン先を患者さんから求められた時に、情報提供していただくときに、例えば東京のほうで腫瘍がんの治療実績が多い病院とか、というのを数でひいていくことはできます。

**(市立長浜病院)**

これは発見された病院に登録されることが多いんですね。実際にメインで治療を受けたところは、そこじゃないかもということもあるわけですね。

**(成人病センター)**

先生がおっしゃる通り、院内がん登録のデータですので、そこで初回マター、治療をどうしたのかとか、診断までなのかとか、院内がん登録の一使用一登録のみのデータですので、確かに追跡の登録ではないので何ともいえません。あくまで参考までです。

**(市立長浜病院)**

どういう場に使うといちばん有効かどうか微妙に。

**(鈴木部会長)**

確かに伏木先生おっしゃるように医師にとってみて、がん登録は非常に期待するところは一生懸命診療した結果を全登録するわけなので、何か常にフィードバックがほしいんです。成人病センターに関して、かなり学会とか発表する時にデータとか出してもらっている。その面でいうとこのシステムでもどうかなというのがありますが、先生そういうところですね。これはここだけでは決められないし。

**(成人病センター)**

これはワーキングでもそういう声が上がっています。研究等で使うことはできるのかという質問をさせていただいたのですが、あくまでもこのシステム開発側とすれば患者支援のためのシステムですので、ご利用は控えさせていただきたいということでした。

**(がん患者団体連絡協議会)**

実際にかかなりの件数、セカンドオピニオンで使われていますか。

**(成人病センター)**

運用を始めたのがつい最近です。実際のワーキンググループがあったのが10月30日、全国的に運用

していこうかということで申し合わせられたので、まだこれからです。

(鈴木部会長)

よろしいでしょうか。それでは6番目、その他、がん患者サロンの普及およびがん患者力向上事業への協力等について、まずがん患者サロンについて菊井会長よろしくお願ひします。

## 6 その他

- ・がん患者サロンの普及およびがん患者力向上事業への協力等について
- ・リレー・フォー・ライフ・ジャパンしが2014の結果について
- ・図書館との交流について
- ・がん対策イベントおよびがん医療フォーラムについて
- ・県からの報告について

(がん患者団体連絡協議会)

先ほど鈴木先生からもご紹介ありましたが、東近江医療圏で来年度からがん患者サロンを開催するという動きが急速に進みまして、東近江医療圏の近江八幡市立総合医療センターと東近江総合医療センターの両方で患者サロンを開こうということで、私たちピアサポーター52名いますが、活動サロンの希望をピアサポーター全員に聞いて活動先を変更しています。その手続きを今やっております。

同時に4月からというのは、ちょっと難しいかもしれないですが、まず病院にサロンのどういう場所ですとか何曜日に開催するとか、サロンの名前を決めたりとかいろいろ丁寧に踏んでいかないと、バタバタとやっちゃって失敗したらいけないので、そのへんは丁寧にさせていただきたいと思っています。

支援病院でサロンを開催するということになると、他の医療圏で今拠点病院だけ、あとは高島圏域の高島市民病院で開催していますが、その支援病院で医療者が開催した患者サロンを定期的に行っているところ、また時々行っているところがあって、少し協力していただけないかという申し出が当協議会にありました。当協議会の役員会でそれを諮りました。がん対策の中で拠点病院、支援病院という構図があって、拠点病院が支援病院を協力するという構図ですよね。その構図は分かっているのですが、患者サイドからいうと、やはりがん治療を主に行っている病院の中にサロンがあるということは、やはり患者のほうからすると、ありがたいことだという意見がありました。

ただ支援病院の中で、今拠点病院で行っているピアサポーターがすべての世話役をしているサロンを毎月やるというのは、今の状況では難しいので、ご要望があって医療者が関わっているサロンに少しお手伝いに行くという形ならばできるのではないかということで、実は大津市民病院から依頼がありましたので、7日に市民病院の担当の先生とお話することになっています。

ただ拠点病院と支援病院で患者さんの取り合いになるというのは、私たちはやってはいけないと思っ  
ていて、サロンの形式を少し違ったものにして、ニーズを少し広げようかなと思っています。それを各病院と当局協議会が勝手にやっちゃると、滋賀県下でやっている相談支援という体制が潰れてしまっ  
てはいけないので、相談支援部会で逐一諮らせていただいて、がん患者サロンを通していか諮りなが  
ら、滋賀県下の中でもサロンの普及に努めていきたいと思っています。その辺皆様のご意見いただき  
たいと思います。

(鈴木部会長)

先にサロンのことをお話しましょうか。今おっしゃったように、患者さんとしてかかっている病院で



サロンがほしいというところですね。形態に関しては少し違う形でということですね。医療者が中心になっているサロンというのは、具体的にはどういうイメージなんですか。

**(大津市民病院)**

患者相談支援室で準備させていただいて、人数が少ない時は相談室で相談させていただいています。がん看護専門医、人があるときには臨床心理士が入ったり、関係者が入って患者さん達とお話しながらという形で進めさせていただいています。もし先生が必要であれば、担当医師のほうが主に入ることが可能になっていますので、必要であれば入るということで予定しております。月1回でほしい予定を組んでいたはずですので。

**(がん患者団体連絡協議会)**

初めのころ、患者サロン参加者がすごく少なかったんですね。今やっと定着してきて初めての参加の方も来られて、ピアだけの患者サロンのよさを十二分に感じているんですね。ピアだけのサロンの自信を持ってきているんです。ピアだけのサロンの良さにすごく自信を持っているので、初めの頃、病院の先生とか看護師さんが参加されるサロンが支援病院にできてしまったら、ひょっとして拠点病院の参加者が支援病院に行ってしまうのではないかと正直なところそういう不安があったんですね。やはり拠点病院だけのサロンをしっかりとやっていこうということでやっていたんですね。

病院の協力も本当にたくさん得られてきて、初めて参加される方、本当に紹介してくださって、私もできる限り行っているのですが、本当に良い時間を過ごすことができるようになってきて自信ももっていたんです。だから別に医療者がおられるサロンがあってもいいのかなというのが、協議会の役員の意見です。たぶん今聞かれたら今されているサロンの方からは違和感を感じられるかもしれないです。私たち運営をやっている当事者としては、ピアだけのサロンというのは本当に素晴らしいと自信を持っています。その辺は安心していただいてもいいのかなと思っています。それを付け加えさせていただいたらと思います。

**(鈴木部会長)**

患者支援という大きな枠組みの中にサロンの要素があって、本県的には患者さん同士すなわちピアサポーターがおられて、患者同士がフリートークをしていくそんなイメージですね。それは各拠点病院で実際行われていて、そういったところに端から終わりまで、医師がどんと座っているようなのはなかなか馴染まないようなイメージもあるんですね。おっしゃっているのは、もう一つのほうは私も初めて今日聞いたところですが、非常に手厚いがん相談というのではないんですね。例えば一人の患者さんならびにその家族さんに、いろんな医療職種の人がスタンバイしていろいろ医療相談を多角的にうけるそういうイメージと思ったのですが、そうではなくて、患者さんはたくさんおられてアットホームないろいろな形で、医療の提供者も参加していると、緩やかな場で参加しているそういうイメージですね。

**(大津市民病院)**

患者さんがどうしても聞きたかったのですが、よく聞けなかったので教えてもらえますかと、医師が答えたほうがいいのかというのであれば担当医の方が出向いて行ってという形をとるということです。相談もありお話の場でもありということになるのでしょうか。

**(がん患者団体連絡協議会)**

また7日にお話をするので私たちもどういう状況でそれに協力していくか、話が終わってからですが、そういう状況まずははかかっていかないと、なんとなくギクシャクしてしまうのではないかと思います。

**(鈴木部会長)**

基本的には各病院さんの質を高める努力ですからね。確かにいろんなところで調整が必要かもしれませんね。

**(がん患者団体連絡協議会)**

日程や時間は全くかぶらないようにして。患者さんが違う病院であるというのがなくなって、いろいろ配慮していかないといけないなと思います。

**(鈴木部会長)**

確かに病院の制度上は、支援病院はその地域の拠点病院と協力をして全体の質を高めるということですよ。大津市民病院さんで始めるにあたって、拠点病院の大津赤十字病院さんと相談したとかそういうのは。

**(大津市民病院)**

始める前に大津赤十字病院さんで研修会を持たれた時に参加させていただいてご相談したりとか、ピアのほうは無理と伺っておりましたので、医療者を中心にしてやっていきましょうということで。決してとるとかおとらないとかではなくて、ご要望があってお話を聞きましょうかというところから入ったらいというところから動いていますので、最初は本当にお一人とかからしか始まっておりませんね。ご相談は前任とどうでしょうねということではお話をさせていただいて、この研修の時に参加させていただいて、こういう方法のほうがいいのだろうかということで、こちらの相談をしてということで動きました。

**(鈴木部会長)**

確かになかなか時間のない先生が出てきていただくというのは、病院の努力でそういうシステムを作られたからいいと思いますが、伏木先生ご意見ございますか。

**(市立長浜病院)**

確か我々拠点病院に患者サロンを作る時には、なるべく医療者が関わらないようにみたいな、私なんか入ったらずっと入ってそうではあるのですが、ほとんど入っていないです。その中で出たいろんな質問に関しては、ぜひ相談支援センターのほうにフィードバックしてもらって、そちらから体制を良くしようとしているので、一応連絡担当みたいな形で事務方が顔だしてくれてというふうには、最低限度の関わりという形では、ここまではみんなの努力でそういう形を作ってきました。一方で違うタイプでされてることにもちろんメリットもあると思うんですね。年2回ですがうちの病院の外で患者さんと膝を交えて話し合える場を実は持っているんです。私たち医療者も白衣を脱いで普段着で参加して、普段は聞けないことを聞いてくるという時間も持ったりしています。そういうことのメリットもやはり大きいと思います。

それで病院の中できつと白衣を着ていかれるのだから、どちらかというとい医者对患者、もしくは看護師对患者みたいな、形の中の相談支援の広まった形みたいことがメインになってしまったりするとちょっと、いわゆる患者サロンではないだろうかと、いろんなことを思いながら整理しきれていないのですが。

患者支援をメインにしているいろんな形を探るということは、恐らく各病院の中で努力があっただけかと思われ、ピアサポーターが仕切る患者サロンが成功している地域と、いまいち伸び悩んでいる地域と、つまり長浜は伸び悩んでいる地域という捉え方もあるかもしれませんが、どんどん患者さんが増えていっているところもあれば、やや閑散ぎみにいつもの顔しか集まっていないところもあるので、そういう中で地域の特長性とか医療者がどうあるべきか、患者さん達のことを考えると、病院ごとに全然違うと思うので、そういう中でいろんな形が混在してくるのもありかなと思っはいます。

そういう中で、もちろん患者団体連絡協議会のお持ちのスキルと、そこで養ってこられたピアサポーターさんの力というのは、上手に発揮されることは絶対必要だと思いますし、有効活用という言い方が正しいかどうかはわかりませんが、有意義に皆さんが活動していただけるような、あまり負荷がかかりすぎなくて、くたびれすぎないような地区を上手く作って頂けたらいいなと思います。地域ごとに絶対違うと思うんですよ。湖南の人の考え方と湖北の人の考え方はかなり違います。大津と湖南がどれだけ違うかは私は把握できませんがたぶん甲賀地域とかとはきっと違いますよ。地域性は絶対ありますよ。湖西は全然違った取り組みとかが必要かもしれません。いろいろうるさく言いましてすみません。

**(鈴木部会長)**

ありがとうございました。伏木先生の言葉に病院として質を高める、患者との接点を広げる、これは本当に奇特なところでね、みんな大賛成だと思います。ただおっしゃるように制度というのがあって、そののところ、基幹のところまで揺さぶるようなことになりはしないかと少しの危惧は、はっきり言って患者の取り合いとか。協力体制が崩れるということにはならないと思いますけれども。

**(大津赤十字病院)**

サロンに参加される方は私は顔見知りの方がいらっしゃるので、私が同席しては逆に話しにくいかなと思って退席していることが多くて。市民病院さんでやられているような医療職が入ってのサロンというのが、別の形でありいろんな形があっただけいいのかなと。

**(鈴木部会長)**

わかりました。確かに大津市民病院でされているのは、医療相談的なところもある程度売りになっているわけでしょう。そういうのは逆にうれしいことですし、普段忙しい診療の場で聞けないことも聞けるということで何ともです。芥田先生同じ圏域でどうですか。

**(大津赤十字病院)**

拠点病院に関しては、相談支援センターという名前に統一しなさいとか、画一的にやる方法でだんだん上のほうはそういう方針で変わってきているのと、別の意味で支援病院に関しては特殊性を出して、違う形でやっておられるのもいいかなと思います。我々のサロンも出席者が少ない時に陰でサポートというスタンスですとってきていて、それほど大盛況ではないけれども続いて定着してきています。菊井さんがおっしゃったピアサポーターさんだけでやるのに自信がでてきたというのは、私たちも実感しているところです。でも一時はもっと病院側として、私たちが積極的にやってあげないから参加者が少ないとか、心配もしていたのですが何とかやっていたいでいるので、私たちも忙しいからそこまでご協力できない反面もあるのですが感謝していますし、もう何年かになるのですが定着してきましたよね。感想みたいな話で申し訳ないです。

**(がん患者団体連絡協議会)**

ピアだけの患者サロンも全国的にもめずらしいので他府県から見学とか話に来てと。この前京都に行ったのですが、京都はピアサポーターを養成しているのですが、ほんとに上手くいっていない。滋賀県の私たちのサロンは大切に育てていきたいと思っています。それとは別に支援病院のサロンは私たちのアンケートはしませんし、データとは外れるのですが熟成していきたいと思っています。

**(鈴木部会長)**

行政から奥井さん来られていますけれども、指針に関してがん患者サロンその辺の文言でどう感じられていますか。

**(県健康医療福祉部)**

きつい縛りはなかったように思いますし、これまでの経過でまわりの状況も変わってきていますし、見直しもあってもいいのかなと思います。利用される患者さんの幸せを思うと、輪が増えることやバリエーションが広がっていくことは、医療者のいるサロンを嗜好される方もおられますし、気楽に患者さんだけで選ばれる方もおられますし、その時によって両方梯子される方があるかもしれないですし、今まではいろいろな申し合わせの中でやってきましたけれども、その場の広がりとかバリエーションが広がるとか、前向きに考えていけたらいいかなと思います。ただ実施されない支援病院さんは、大津市民病院さんがされるののうちはとか、引け目とかそういうふうに感じられることはないとは思いますが、そこだけは。

**(鈴木部会長)**

すなわち県の要望の中に支援病院に関してもこういった独自の形態、一致であるとか固いことは今のところ考えておられないですね。

**(県健康医療福祉部)**

ここ何年か支援病院の相談支援の役割はなんだろうかということ、いろいろ支援病院の方からも聞いていますので、今後見直しをしていかないといけないかなと思います。

**(鈴木部会長)**

この議論長くなるとあれですので、最後に寺村さんのほうからご意見いただきたいのですが、長浜赤十字病院は本当に地域連携、パスの数もがんばっておられるのですが、同時に患者のサロンの考え方とか、ちらっとあるようにないように聞いたのですが、現状どのようにお考えですか。

**(長浜赤十字病院)**

うちの病院では年に2回がん講演会という形で、医療者から場を提供するという形をとっているのですが、その中で患者さん同士で話し合いを持っていただける場を設けて行っています。今度11月22日も開催する予定ですが、うちの病院で治療されている患者さん、結構来られている患者会の方がお部屋を貸してほしいということで、借りられて自分たちの支援活動なさったりとか、その場に同席させていただくこともありますしそういう現状です。

**(鈴木部会長)**

長浜赤十字病院さんも、その病院の相談の質をあげるために努力はこれまでどおりされていますし、これからも発展させていきたいというところでしょうか。今日の議論はこのぐらいにしておきましょうか。どうもありがとうございます。

続きまして、患者会藤田さんから患者力向上事業についてご説明をお願いします。

**(がん患者団体連絡協議会)**

患者力向上事業について今年度3回のシリーズで予定してしまして、7月21日と9月23日は終了しています。次回11月30日にも予定させていただいていますが、7月21日には病院関係者が14名、来賓11名、ピアサポーター38名、一般51名、スタッフ11名、合計で125名参加いただいています。9月23日には、今日お見えになっております市立長浜病院の伏木先生の放射線療法の基礎知識、また草津総合病院の平井えいこ看護師さんのがんの部位別QOLと体験談、今日お見えになっております公立甲賀病院の柴田看護師さんにリンパ浮腫の講演をいただきました。ありがとうございました。

9月23日は病院関係者10名、来賓19名、ピアサポーター42名、一般が43名で報道関係者等いれまして合計128名の参加でした。11月30日には92名の参加申し込みがあります。アンケートもとらせていただいています、全部終了次第こちらでさせていただきたいと思いますので、よろしくお願

します。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。11月30日今月ですね。

(がん患者団体連絡協議会)

テーマは血液がんについて知ろうということで、血液がんの基礎知識については大津赤十字病院の大野先生にお願いしています。また多発性骨髄腫については京都鞍馬口医療センターの島崎先生と長浜赤十字病院の木藤先生にお願いしています。あとがん患者の気持ちというところで市立長浜病院の山岸看護師さんにお願いしています。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。では皆様方協力お願いいたします。

続きまして、リレー・フォー・ライフ・ジャパンしが2014の結果についてお願いします。

(協議会事務局)

15、16ページの資料を使って説明させていただきます。会長から説明がありましたように10月25・26日に近江八幡でリレー・フォー・ライフ・ジャパンが開催されました。この場でがん診療連携協議会としてブースをださせていただきまして、15ページにある皆様にお手伝いいただいて、常にごがん診療連携協議会の展示ブースと相談ブースを設置して、常に4名の方がローテーションで対応していただくというようなご協力をいただきました。裏面には写真をつけました。

今回担当者として私現場にいたのですが、感想としては、やはり相談ブースと展示ブース二つ立ち上げたのですが、ほとんどの方が相談ブースには来られなくて、展示ブースに来て一生懸命チラシを見たり探しものされている方がおられました。そういった方々に何かお探しですかとか、どういったものが必要ですかということを、相談員の方に声をかけていただくとそこから話が広がって行って、相談につながったという事例がいくつかありました。いきなり相談ブースを目指して来られるという方はほとんどいませんでした。

正式な依頼ではないですがまた来年もお願いしますという話も聞いているので、もし来年も同じようなことをするのであれば、今回のように二つブースをだす必要はないのかなと。展示ブースを立ち上げて、そこに相談員がいるのでお気軽に相談なり話しかけてくださいという看板を立てておけば意外と役に立つのかなと。今回4人で対応しましたが、2人対応でいけば済むのかなと考えていますので、もしも来年も同じような依頼がありましたら、そういった感じで皆さんに御協力お願いしたいと思っております。以上です。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。今嶋田さんから報告ありましたように、私たち医療を提供するものにとって非常に大きな勉強になりました。来年度も再来年度も経年的にやっていくということですので、引き続き協力していきたいと思っております。ノウハウはだいたいわかりました。全く今回は初めてなのでどうなることかと思いましたが、成功に終わりました。

つづきまして、図書館との交流につきまして三輪さんよろしく申し上げます。

(成人病センター)

資料はお作りしていませんので口頭でお伝えします。7月11日に図書館との交流会ということで、がん相談支援センターとどのような地域連携ができるかということを中心に、いろいろグループワークを含めて時間を要しまして、その中から連携方法として3つ4つくらいのヒントが出てきましたので、

それをお伝えし、今後当院のほうで連携を考えている内容をここでお伝えしようと思います。

図書館サイドさんで相談員を活用していただいたり職員を活用していただく方法としまして、がんの出張相談が可能であるのではないかとということ、図書館さんの場所を借りて講演会や研修会、勉強会の開催ということができるのではないかとということ。病院サイドにおきましては図書館で持っておられる図書の貸し出しをさせていただく中で、より鮮度のよい図書を相談者の方に提供できるのではないかとということ。医療者と図書館サイドで専門書の整理をするということで、より現状の情報に即した医療情報の提供ができるのではないかとこところのヒントがいただけた交流会でありました。

この交流会から次年度どのように持っていくかということもあるのですが、当院としましては、立地条件として近くに守山市立図書館がありますので、館長さんとの理解も得られました中で、11月早速明日からですが、第1と第3木曜日の10時から13時という3時間のがん出張相談を試行するという段階が踏めました。実際はどれくらいの利用者の方がおられるかは全く初めてのことでありますので、不安はたくさんあるのですが、お一人の方は事前の予約をされたということをお先ほど電話が入りまして、軌道にのっていけばこの施行を踏まえて次年度どうしていくか関係者のほうで評価し、次年度の運用を考えていければと思っています。この輪がより広がればいいかなと思っています。

**(鈴木部会長)**

ありがとうございました。三輪さんからは非常にうれしい話がありました。図書館というと私たち学生時代は夏休み弁当を持って、小さなブースで勉強するだけとかそういうことでしたが、今日もNHKの朝の番組見られた方はおられますか。図書館はまさにコミュニティ、コーディネーターの場として発展しつつ、改めて地域の文化拠点として見直されていく。そもそも図書館に来られる方はそれなりの意識を持って来られる方が割と多いので、そこに於いて啓発事業をするのは非常にリーズナブルです。

ただ今話にありました守山市民病院と成人病センターというのは近隣であるからということの一つのトライアルですが、これは広く協議会、公的図書館の協議会があるのですが、そこでの公式なコラボとして発展させていくように、相談支援部会でもしていきたいと思っています。よろしくご協力お願いします。ご協力というのは、すなわち講師料金無料で各拠点病院からドクターだせということです。皆さんフィードバックしていただきね。伏木先生来てくださいね。

**(市立長浜病院)**

もちろん。

**(鈴木部会長)**

滋賀県立図書館は非常にいいところですし、そこでいろんなことができたならうれしいなと思います。では続きましてがん対策イベントおよびがん医療フォーラムについてよろしくをお願いします。

**(協議会事務局)**

では17ページから資料で説明させていただきます。17ページの資料につきましては何度か説明した資料とほぼ同じですが、2月8日にがん医療フォーラムを開催しますと。テーマについては以下の通りの内容になっていますという説明です。18ページはどなたに講演いただくとか、シンポジウムに誰に出していただくとかそういったものを整理しています。

今回新しい資料としまして、19ページからになります。今現在作成中のチラシの案です。19、20ページと両面のチラシですが何度か説明しましたとおり、今回のがん医療フォーラムは健康づくり財団が中心となって準備している滋賀県がん対策推進イベント、これはがんの検診とか予防をメインで考えてもらおうということで開催しているイベントですが、このイベントとコラボして相乗効果はかかれるの

ではないかなということで、同じ日に同じ会場で午前午後に分けてイベントを開催することにしております。今回がん対策委推進イベントでは滋賀県出身のプロゴルファーの中溝裕子さん、プロになってすぐの時に白血病にかかれて、闘病生活をした結果復帰されたという方です。

森乃福郎さんという落語家の方、夏ごろに「ガンタペール」という落語を成人病センターでしていただいたのですが、今回も創作落語をこのイベントで披露していただけるということです。そして午後にはがん医療フォーラムが始まり、国立がん研究センターの高橋都先生に来ていただいて、就労支援について講演をいただくと、そういった流れで一日がんに関するイベントをやっていききたいということ 2月8日で準備を進めています。

20 ページではこの1日のプログラムについて紹介しています。ここで一つ皆様にもご協力いただく必要があるのかなと思っているところがありまして、今回この会場内でがんに関する相談のブースを作りたいと考えております。昨年度も同じようにブースを立ち上げていたと聞いていますが、健康づくり財団のほうでもがん検診について検診車をもってきて、そこで検診してもらうことも考えています。こういった取り組みについてまたご協力をお願いすることになるとは思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

今回このがん相談であるとかがん検診については、事前の予約を受け付けると考えています。20 ページ、一番上に小さな字で書いてますが、★のプログラムについては1月15日までに申し込みをお願いしますと書いていますので、事前の申し込みを受け付ける予定で考えています。当然相談件数が少ないようであれば、飛び込みで相談を受けることも考えたいなと思っています。先ほどのリレー・フォー・ライフ・ジャパンの話でもできましたが、こういう場で相談というのが抵抗ある方も多いと思いますので、チラシも展示しておきたいと思っていますので、リレー・フォー・ライフ・ジャパンの時みたいに、チラシに興味を持たれている方に話かけるということでもいいのかなと考えています。とりあえず予約申し込みがどれくらい集まるかみてみたいとわからないと考えています。

またがん医療フォーラムについては、各拠点病院の皆様にも相談ブース以外の運営について、参加者の受付等についても毎年ご協力をお願いしていると思いますので、今年もそういった運営サイドのほうのご協力も皆様にお願ひしたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

#### (鈴木部会長)

ありがとうございました。皆様方運営協力よろしくお願ひします。

続きまして県からの報告があります。よろしくお願ひします。

#### (県健康医療福祉部)

滋賀県健康医療課の奥井です。右上に健康医療課資料と書いてある資料をご覧ください。今日はがん対策推進基金の活用する事業について夏から提案募集をしましたので、その結果の報告をさせていただきます。これまでの経過ですが、4番平成26年度スケジュールをご覧いただきたいと思いますが、6月から8月にかけて、平成27年度に基金を使ってどんな事業をしたらいいかというアイデア募集をさせていただきました。診療連携協議会もいろんな部会でお声がけをいたしまして、その結果120の提案を頂戴しました。それを受けまして、8月末にがん対策推進協議会という県のがん対策を考える一番大きな会議ですが、そちらに報告をさせていただき、その中からどういう事業を選定していくといいかご議論をいただきました。後日協議会の会長、副会長にもご相談しました結果、有力候補が絞られてきていますので、そちらもご報告しておきたいと思ひます。

3 ページ目、どういうふうを選んでいったかという考え方をご説明しておきたいと思ひますが、まず

提案事業が 120 件ありまして、事業主体がどこがいいか考えてみました。民間主体がいちばん効果的にできるのではないかというものや、いやいや民間主体ということでご提案があったけれど、県がやっぱり責任もってやるべきことだなと考えるものもありました。ここでは基金を使うものは民間主体のものに活用していきたいなということで考えました。更に民間主体の中でもソフトの事業、ハードの事業、機械を買うとかどこかを回収するとかもありましたが、いろいろ他の財源、例えば消費税を財源とした新しい財政支援制度も今年度できましたので、ハードについては他の財源を活用することにしまして、がん基金ではソフトの事業、がん対策に必要な相談支援や啓発とかそういうものを中心に使っていつてはどうかということで、協議会の会長、副会長の賛成もいただいております。

そうしたところ、次のページから 120 件の事業を表にあげておりまして、整理しております。最初のページのいちばん表の左側見ていただきたいのですが、分野大というところにあります。がんの予防と早期発見、予防の知識の充実とか検診についてのご提案がこのページにあります。次のページが質の高いがん医療、こちらは病院単位の機械の整備ですとか環境整備ですとか、人材の育成等のご提案がありました。できるだけ可能なものは新しい財政支援制度に持っていったらということで、ご提案のあったところには、病院のほうにもそちらへ応募されてはどうですかとご紹介させていただくことで対応しました。

がん対策推進基金を活用していきたいと考えたのが、3 番 患者・家族の苦痛の軽減と生活の質の向上、4 番 患者・家族を支える社会の構築、こういったところに基金を使った事業を採用していったらと考えています。現在の有力候補ですが、提案番号 61 番、公共図書館からご提案があったがん情報講座の開催等、同じく 72、73 番、公共図書館から複数ご提案がありまして、図書館の健康情報コーナーの設置やがん情報講座の開催等となっております、これが有力候補の一つ目です。他には 63 番がん患者向け情報発信の充実、患者団体の HP の充実、加えて講座の開催ということで、具体的にはがん患者団体連絡協議会さんの先ほどご紹介のあった患者力向上の講座とホームページの開設、こちらを継続して基金からご支援できればと考えます。

有力候補の 3 つ目が提案番号 65 番、地域型がん患者サロンの開催で働く患者と家族向けに夜間・休日の開催をしますということで、それを目指して NPO 法人の立ち上げを現在進めている団体がありますので、そちらが有力候補の 3 番です。

次のページ、提案番号 80 番ですが、がん患者支援のチャリティーイベント、「リレー・フォー・ライフ」の開催、今年度既に基金からご支援したところですが来年度も継続したいと思います。リレー・フォー・ライフだけに限定するのではなく、同様にいろんな啓発活動をされる団体がおられたら、そちらに同じようにご支援できればと考えます。

有力候補の最後ですが、提案番号 85 番、小児がん患者と親の学習・交流の機会提供ということで、こちらは小児がん対策、新しく取り組みだしたばかりの分野でもありますし、今まで陽の当たってこなかった大人に比べて立ち遅れてきた部分であります。対面者の親御さんが実際にやりたいと、具体的なプランをお持ちですので、ぜひこちらにご支援したいと考えて、これらを想定して現在県の予算要求の作業を進めているところです。

先ほどお話のあった公共図書館とがん相談支援センターとの連携というところでは、今回の試行ですとか、三輪さんのほうからご紹介があった交流会の結果等も踏まえながら、実際どういうお金の使い方をしていくか、ご意見をいただきながら決めていけたらなと思っています。今のところ、予算要求の都合上、私のほうでこんなことが必要かなといくつか見切り発車をしているところですが、また皆さんの



ご意見をいただきながら、打ち上げ花火的ではない、定着していけてかつトライアルなことに使っていけたらと思いますので、今回の試行を踏まえてこんなことにお金が必要とか、そういうことをこの事業を活用してやっていってもらえたらなと思っています。

補助の対象をどうしたらいいかと思ったのですが、今のところ公共図書館の協議会さんに対する補助が、この基金の使い道としても筋が通ったかなと思って要求をしていますので、それが実現するように先方との調整を相談支援部会さんをお願いできたらありがたいなと思います。

**(鈴木部会長)**

ありがとうございました。大切ながん基金ですね、有効に活用する、そして使い道に関しましても、こういう透明性をもって皆さんと話しながら、皆さんの意見を参考にしながら決めていけるということは、滋賀県は本当に幸せなことだと思っています。三輪さん具体的な成果をお示しして計画してください。基金に関して他ありませんでしょうか。どうもありがとうございました。

予定しました議題はこれまでですが、その他何かございませんか。  
滋賀医科大学はリレー・フォー・ライフ、本当に良く頑張られて。また講師になりましたが特に何か印象はございませんでしたか。

**(滋賀医科大学附属病院)**

私は医療セミナーの方を中心に参加させていただいたのですが、そちらではやはりがん教室とかがん患者サロンとか病院でもやらせていただいているのですが、ああいった場で直接患者さんとかご家族を目の前にして色々な意見を聞けたので、そういう場は大変貴重だったと思います。ブースも出させてもらって、患者さんやご家族の方と交流する機会が持てましたので、大変良かったかなと思っています。

**(鈴木部会長)**

ありがとうございました。公立甲賀病院は相談支援件数や実績はびかーですので、いろんなバリエーションのある相談は先ほど出ましたけれども、何かそれに関してコメントはいただけますでしょうか。あれだけの件数をされていってご尽力されているのですが、ドクターが具体的に入られることもあるのでしょうか。

**(公立甲賀病院)**

医師が入るといえることはないですが、先ほど大津赤十字病院さんがおっしゃったように、何かご質問があって医療者が回答したほうが良いということがあれば、最後に入らせていただくという形で、大津市民病院さんがおっしゃっている役割も一つかなと思いますが、私たちは、ピアサポーターさんがサロンをされるという良さを前面に出していきたいと思っていますので、なるべく影のほうというか支えるというほうがいいのかと思っています。

最後は奥井さんのほうからありました図書の方に関しては、11月に入ったのですが、12月1月になってくると次年度の計画を立てていかないとだめなのですが、成人病センターさんは図書のほうといういろいろ取り組みをされているのですが、例えばそういった動きを各個人の拠点病院が市の図書館とやっていくという動きになってしまうのですが、そうではなく県と図書というあたり、何か動きが統一されたものを動かしていくほうがいいのか、そのへんはどういうふうに私たちは計画を立てていけばいいのでしょうか。

**(鈴木部会長)**

そうですね。守山市民病院が近いからやっているのではなくて、相談支援部会と公的な図書館、協議会という実態がありますけど、あくまでそことの応接で、段々広がっていくとそういうことですね。

窓口は一本化しているということで。そのへん情報があまり共有できなかったとしたら申し訳ありませんでした。しっかりと情報共有してメーリングリストを使いながらしたいと思います。

**(公立甲賀病院)**

拠点病院としては図書の方々と個人的に動かなくてもいいという形になるのですか。

**(成人病センター)**

今年2回目の交流会ということで、今年度評価して、またこれが滋賀県に広がっていったらいいなど話し合いはしているのですが、拠点病院、市立長浜病院も長浜図書館と連携があるように色々なところで動きがあっているのかなとは思っています。

第3回目があるとすればこういう報告をしあって、よりよい公立図書館とがん相談支援センターの連携を見出していったらいいのかなと思います。きっかけづくりをいただいたので、成人病センターはこう動いている、公立甲賀病院さんはこう動きますという形でどんどん動いていただけたらいいのかなと思います。制限するものでは全くないです。

**(公立甲賀病院)**

もちろんそうかなとは思っていたのですが、今の基金が図書のほうにつくとおっしゃられたので、そういう動きをどういうふうにしていけばいいのかなというふうに捉えたので。

**(成人病センター)**

基金に関しては守山市図書館にではなく、公立図書館協議会にということでは考えてくださっているの、協議会さんで運用が施行されることになります。

**(大津市民病院)**

例えば、この間うちの病院は図書館と連携したのですが、例えば国立がん研究センターのリーフレットは図書館にあったのですが、非常に古いものでしてその予算をどこからとるのかとか、その意見をどこで聞いていただけるのかなと。こういう場で言うていいのか、どこか改めて聞いていただける場所があるのかお聞きできたらと思います。

**(成人病センター)**

いろいろな図書館で揃えているのは揃えているのですが、おっしゃるように古くて鮮度が保たれていないところもあります。協議会さんで基金に関してどう扱っていくのか協議を今して下さっている段階で、具体的にはまだ決まっていない段階です。ここと守山市立図書館としては冊子の購入ができたらいいねということで、当院で購入した国がんの冊子をお持ちするという形での提供を今のところ考えています。今後図書館協議会さんにこの基金がでるといふことであれば、図書館協議会さんに国がん冊子を購入していただく、滋賀県下の公立図書館に配っていただくという仕組みを作っていくことは可能なのではないかと思えます。

**(鈴木部会長)**

わかりました。私きつい言い方で窓口でとか言いましたけれども、各拠点、地域の特性もありますし、それぞれの特性を生かした関わり合いを積極的にしていきます。ただしその業務内容、成果については、こういう場でお互い共有することにしましょうか。よろしいですか。ありがとうございます。吉村さん、サロンのことはどうですかね。

**(草津総合病院)**

以前担当させていただくようになってから、サロンをという声をいろんなところからいただけていて、相談させていただいたことがあったのですが、実際運営するスタッフの方とか拠点病院でもなかなか定

着しにくい状況だったということもあって、考えるのもとめますととめていたんです。済生会滋賀県病院さんもちよこちよこサロン、形態は違うのだと思いますが、サロンをするというお話があったので、うちも何か考えないといけないなと思っていて、大津市民病院さんがそんなことを言うから、ちょっと頭を動かさないかなかなと思っています。

ただ基本的に今まで成人病センターのサロンとか大津赤十字病院さんのサロンとか滋賀医科大学附属病院さんとか紹介させていただいていて、うちやりますというのも少し違う話かと思うので、拠点病院さんがされているサロンへの紹介は、そのままし続けたいとは思っているのですが。ただ何でこの病院いかないかんのかと言われることも実際あるので、かといって質の高いものが確保できるか、継続的にできるのかもクエスチョンかなと思いますし、今日から考えようかと思っています。

**(鈴木部会長)**

わかりました。確かに継続というのは難しいので、例えば大津赤十字病院さんは年2回して集まっていたとか。最後に歯科医師会、歯科衛生士会から来ていただいています、相談支援に関して長谷川さん、困ったこと等ありませんか。

**(歯科衛生士会)**

市立長浜病院さんの担当の方と、何かありましたらそちらに相談していただきますように連携とれていますので、あまり困るようなことは。滋賀の療養情報もすぐく利用させていただいていますし、がんの告知をする方にはその場で配らせていただいています。

**(鈴木部会長)**

特に湖北では実際にメーリングアドレスで非常に活発にされていますね。今度は湖西、東近江も見ながらという話になりますので、よろしく今後ともお願いします。歯科医師会さんお願いします。

**(歯科医師会)**

今日の議題とは関係ないですが、健康づくり財団で2年間お世話になっていまして、その時に対がん協会の事務もやっております、リレー・フォー・ライフをやっていたということで、いつか早くできればなと思いながら2年間過ごしていましたので、ありがたいなと思っております。推進イベントも財団がするというのも先ほどお聞きしましたので、できるだけ協力させていただけるかなと思います。よろしくお願いします。

**(がん患者団体連絡協議会)**

2月8日に開かれます県のがん対策推進イベントですが、中溝さんの絵手紙教室を11月9日に草津で開く予定をしています。それをNHKが取材をして2月の啓発イベントにつなげていこうという計画をしているのですが、対がん協会から参加者が少ないので是非ともアナウンスしてほしいと言われていたんです。9日は私たちの患者会の関西の大会があり患者会は出れないので、ぜひ病院へ帰られたら紹介していただきたいと思います。今資料はないのですが草津であります。対がん協会の小林さんに聞いていただいたらチラシがあると思うので、ホームページに載っているの、9日日曜日ですがぜひ参加して頂けたらなと思ってご紹介させていただきます。よろしくお願いします。ぜひ先生も。

**(鈴木部会長)**

ありがとうございました。孫を連れてこようと思ったのですが、滋賀県在住でなければならないという縛りがありまして。大人はだめですね。

**(がん患者団体連絡協議会)**

大人もいいんです。

(協議会事務局)

滋賀県在住の小中学生のお子さんと保護者の方と書いていました。そこまで縛る必要があるかどうか分からないですが。

(がん患者団体連絡協議会)

図書に関してですが、確かに患者さんが古い図書を読んで来られたりすることがあったりするので、新書が出た時にせつかく情報を提供してくださるなら、どここの図書館にこういう本が入りましたとかあげていただいたら、開く機会も多くなるのではないかと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

(鈴木部会長)

ありがとうございました。では遅くなってしまいましたが、第2回相談支援部会を終わらせていただきます。皆様ご協力どうもありがとうございました。